

エキスパートA
「昔の上殿の様子」

名前

○次の資料を読んで、昔の上殿の様子について分かったことをまとめましょう。

◆昔の「上殿村」のようす

今は「広島県山県郡安芸太田町上殿」ですが、昭和30年（今から65年前）までは、人口（じんこう※1）1400人、家の数200けんぐらいの小さいながらも、ひとり立ちの「上殿村」でした。

谷々は南向きの、なだらかなしゃめんをつくり出しているのです。そこは日当たりがよく、人が住むのに大変つごうのよい所になっています。おどろいたことには8000年前のじょうもん時代のはじめのころから、人が住んでいた遺跡（いせき※2）があります。上殿村は歴史の古い村といえることができます。

昭和の初めごろ（今から90年ぐらい前）の上殿村の広さは、村としては非常に小さな村でした。しかし、村の広さにくらべ、人の数は多く、人口密度（じんこうみつど※3）は山県郡内で一番高い村でした。

稲（いね）を作る田んぼは、何よりもほしかったのですが、山から流れ出る水が少なく、田んぼをつくろうにも多くはつくれなかったのです。しかたなく水が少なくてすむ畑にしてつくっていました。

～中略～

山根蕭（しずか）さんは村長になってすぐに、「水路をつくって、畑を田んぼにつくりかえる」という考えを発表しました。村の人は「村の高いところへ水を引く水路をつくるんじゃそうじゃ」「わしらはお金をよう出さんが、村長さんはどうしてくれてんじやろうか」といろいろわさしましたが、お米を作りたい村の人にとって、それはゆめのような大計画でした。

「水路の水はこんこんと」著 今田三哲 より



昔の上殿の様子は…

エキスパートB 「今の上殿の様子」

○次の3つの地図から、今の上殿の様子について分かったことをまとめましょう。

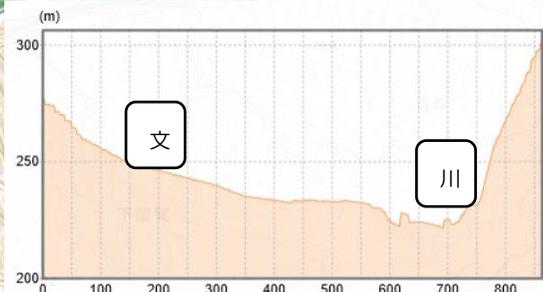
名前

こうくうしゃしん
航空写真 ～空から見た上殿～



同じ場所

ちけいず
地形図 ～土地の高さが分かる地図～



だんめんず
断面図：地形図の④から⑤の
場所を切って横から見た図。
土地の高さが分かるよ。

3つの地図を見るポイント

- 写真や地図記号を見ると、上殿は、どのように利用されている土地が多いかな？
- 上殿は、高い所には何があって、低い所には何があるのかな？

今の上殿の様子は…

エキスパートC

「米作りで使う水について」

名前

○次の資料を読んで、米作りで使う水について分かったことをまとめましょう。

◆資料1 「田んぼの水の管理について」

稲（いね）が育つためには、多くの水を必要（ひつよう）とします。10アール（※1）当たりの用水量（ようすいりょう）は、1000～1500キロリットルにもなります。水は、ふつうは、川やため池から引いた水路（すいろ※2）を通して水口から水田に入れますが、傾斜地（けいしゃち）では水田を階段状（かいだんじょう）に作って、上の田から下の田に水を順々に流して供給（きょうきゅう※4）します。

また、ふつう、水田には3～5センチメートルの深さの水を入れておきます。農家が朝夕水田を見回るのは、この水の深さを調節するためです。

※1 10アール…10m×100mの面積 ※2水路…水を通すために作られた通路

※3傾斜地…ななめにかたむいた土地 ※4供給…必要に応じて物を与えること

～農林水産省 ホームページより～

◆資料2 「田んぼに入れる水の量について」

田んぼに入れる水の量は、米作りをする1年の間（じっさいは、いねが田んぼにある6カ月くらい）で、10アールの田んぼに、だいたい1500キロリットルくらいです。学校のプール、5つ分くらいです。

～農業総合研究センター水田農業試験場 ホームページより～

米作りで使う水は…

地域について考えよう
～上殿 宝さがし～

名前

上殿で米作りを始めるには、どのような工夫があったのでしょうか。

授業のはじめ

授業の終わり

これから調べたいこと